

令和7年度 技術・家庭〔技術分野〕 <第3学年> 年間指導計画と評価規準

技術・家庭 教科の目標

生活の営みに係る見方・考え方や技術の見方・考え方を働きかせ、生活や技術に関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 生活と技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。
- (2) 生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなど、課題を解決する力を養う。
- (3) よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

技術分野の目標

技術の見方・考え方を働きかせ、ものづくりなどの技術に関する実践的・体験的な活動を通して、技術によってよりよい生活や持続可能な社会を構築する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 生活や社会で利用されている材料、加工、生物育成、エネルギー変換及び情報の技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付け、技術と生活や社会、環境との関わりについて理解を深める。
- (2) 生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、製作図等に表現し、試作等を通じて具体化し、実践を評価・改善するなど、課題を解決する力を養う。
- (3) よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

第3学年年間指導計画（評価規準）

★ 知は、知識・技能

思は、思考・判断・表現

主は、主体的に学習に取り組む態度

月	内容	単元名	指導内容	評価規準			評価方法	
4 D 情報の技術	1－1 生活や社会と 情報の技術 (p196-199)	①生活や社会を支える情報の技術 ②身の回りにある情報の技術	知 思 主	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りにある、情報の技術を利用した機器やサービスに込められた工夫を読み取り、情報の技術の見方・考え方を気付くことができる。 			知 定期テスト ・製作品	
				<ul style="list-style-type: none"> 進んで情報の技術と関わり、主体的に理解し、技能を身に付けようとしている。 				
	2－1 双向性のある コンテンツ による問題解 決 (p238-247)	①問題解決の流れ ～ 実習 ・オーロラキュートを活用し、プログラムの制作、制御の実施	知 思 主	<ul style="list-style-type: none"> 双方向性のあるコンテンツの仕組みを理解し、簡単なプログラムの制作、動作の確認及びデバッグ等ができる。 安全・適切なプログラムの制作、動作の確認及びデバッグ等ができる。 			思 定期テスト ・グループワーク ・発表内容 ・ノート	
				<ul style="list-style-type: none"> 双方向性のあるコンテンツに関わる問題を見いだし、課題を設定できる。 使用するメディアを複合する方法と効果的な利用方法など利用者に配慮した解決策を構想し、情報処理の手順を具体化することができる。 制作工程表に基づき、設計と実際の動作を確認しながら、合理的な解決作業を考えることができる。 問題解決とその過程を振り返り、社会からの要求を踏まえ、プログラムがよりよいものとなるよう改善及び修正を考えることができる。 				
				<ul style="list-style-type: none"> 自分なりの新しい考え方や捉え方によって、解決策を構想しようとしている。 知的財産を創造、保護、及び活用しようとしている 自らの問題解決とその過程を振り返り、よりよいものとなるよう改善・修正しようとしている。 				
	1－2 情報とコンピュータ (p200-217)	①コンピュータの構成 ②コンピュータの機能と装置 ③コンピュータを使って	知 思	<ul style="list-style-type: none"> 情報のシステム化に関わる基礎的な仕組みを説明できる。 			主 授業態度 ・提出物 ・ノート ・授業中の発言 ・グループワークや作業への取組 ・振り返りシート	

		機器を自動で動かすしくみ	国	・進んで情報の技術と関わり、主体的に理解し、技能を身に付けようとしている。	知 ・定期テスト ・製作品
9 1 0	D 情 報 の 技 術	1-2 情報とコンピュータ (p200-217)	④コンピュータによる処理のしくみ ⑤プログラムの構造と表現 ⑥情報のデジタル化 ⑦デジタル情報の特徴	知 ・処理の自動化に関わる基礎的な技術の仕組みを説明できる。 ・処理の流れや手順を図で適切に表現でき、安全・適切なプログラムの制作、動作の確認及びデバッグ等ができる。 ・情報の表現、記録、計算についての科学的な原理・法則や情報のデジタル化に関わる基礎的な技術の仕組みを説明できる。 思 国	思 ・定期テスト ・グループワーク ・発表内容 ・ノート
1 1		1-3 情報の表現と伝達 (p218-227)	①使いやすさを工夫した情報の表現 ②メディアを利用した情報の表現 ③情報通信ネットワークのしくみ ④Webのしくみと情報の表現	知 ・情報の使いやすさやわかりやすさに関する工夫を理解し、メディアの特性を踏まえたデジタル化の方法や情報を利用するための基本的な仕組みを説明できる。 ・情報通信についての科学的な原理・法則と情報通信ネットワークの構成に関する基本的な仕組みを説明できる。 ・情報ネットワーク上で情報を利用する仕組みを説明できる。 思 国	国 ・授業態度 ・提出物 ・ノート ・授業中の発言 ・グループワークや作業への取組 ・振り返りシート
1 2 1 2		2-2 計測・制御による問題解決 (p248-259)	①問題解決の流れ ～ 実習例	知 ・計測・制御の仕組みを理解し、簡単なプログラムの制作、動作の確認及びデバッグ等ができる。 ・安全・適切なプログラムの制作、動作の確認及びデバッグ等ができる。 思 ・出入力されるデータの流れをもとに解決策となる計測・制御システムを構想し、情報処理の手順を具体化することができる。 ・制作工程表に基づき、設計と実際の動作を確認しながら、合理的な解決作業を考えることができる。 ・問題解決とその過程を振り返り、社会からの要求を踏まえ、プログラムがよりよいものとなるよう改善及び修正を考えることができる。 国 ・自分なりの新しい考え方や捉え方によって、解決策を構想しようとしている。 ・知的財産を創造、保護、及び活用しようとしている。 ・自らの問題解決とその過程を振り返り、よりよいものとなるよう改善・修正しようとしている。	
2 3		3 これからの情報の技術 (p260-263)	①情報の技術の学習をふり返ろう ②情報の技術と私たちの未来	知 ・生活や社会に果たす役割や影響について情報の技術の概念を説明できる。 思 ・よりよい生活や持続可能な社会の構築に向けて、情報の技術を評価し、未来に向けた新たな改良、応用について提言できる。 国 ・よりよい生活や社会の構築に向けて、情報の技術を工夫し創造しようとしている。	